

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02391

研究課題名(和文) 壁を壊す 国際的な日本演劇研究のための拠点の構築

研究課題名(英文) Breaking the wall -building the international base for Japanese theatre research

研究代表者

岩井 眞實 (Iwai, Masami)

名城大学・外国語学部・教授

研究者番号：00221789

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本演劇研究を国際化するための基盤を作り上げることにある。その具体的な研究材料として、日本の仇討物(敵討物)を選んだ。復讐は東西共通のテーマだからである。しかし比較対象となる西洋の復讐劇の多くは王権あるいは権力と結びついており、政治劇の様相を呈している。この視点からすると日本の仇討物も、むしろ政治劇の範疇で扱った方がより生産的な議論が可能となる。東西の演劇において、仇討物と政治劇とは相互に包含関係にあるということである。

この見解は、国際演劇学会での発表や一連の論文によってもたらされた。結果、日本の政治劇をテーマとした書籍の出版を視野に入れた共同研究に入った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

概要に示したとおり、本研究は復讐劇研究から政治劇研究へと発展した。研究期間内に得たもう一つの大きな収穫は、本研究が将来的に英語で出版できるかもしれないという示唆を得たことである。その可能性を試すために、研究代表者および分担者は、2019年度より18世紀の人形浄瑠璃文楽を対象を絞り、西洋演劇的な読解方法を用いてこれらの作品を政治劇として解釈し、英語論文として試験的に書くことを試みている。その成果の一部は論文・学会発表となって公開された。

2020年3月の時点では当該出版はまだ実現していないが、その準備的な研究を行い、海外の日本演劇専門家から示唆を得た点で、助成金を有効に活用できたと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to build the base for internationalization of Japanese theatre research. To achieve this purpose, we chose revenge plays as a material, because revenge (or vendetta) is supposed to be common theme between Japan and the West. However we realized that Western revenge were politics rather than personal vendetta. From this viewpoint, we can look forward to a productive discussion, when we deal with Japanese revenge plays as political ones. Revenge and politics are in an inclusive relation in the world of theatre and drama. We discovered this principle through our experience of international conference and the series of papers on revenge plays we wrote. Consequently we launched a joint research aimed at publishing books on Japanese political drama.

研究分野：演劇学

キーワード：人形浄瑠璃 歌舞伎 復讐劇 政治劇

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の伝統演劇研究は次のような手続きを踏んで行われてきたと考え得る。

一次資料の整理・翻刻・復刻に大きなエネルギーが投入された。

に基づいて作者や俳優、あるいは劇場や上演に関する歴史的事実を確定する試みが行われた。

を出発点として、特定の作者あるいは時代における歌舞伎や浄瑠璃の上演実態、あるいは世界観を復元しようとする総合的な試みが行われてきた。

こうした状況は 20 年以上変わっておらず、 の下位に 、その下位に という研究の階層構造は暗黙知となって現在に継承されているように思われる。

(2) 一方、海外における日本の伝統演劇研究は、日本におけるそれとはほとんど没交渉のうちに独自の世界を形成しているように見える。特にニューヨーク市立大学のサミュエル・L. ライター名誉教授、ハワイ大学のジェームズ・ブランドン名誉教授(故人)、ロンドン大学 SOAS のアンドリュー・ガーストル教授など、突出した先駆者の恩恵により、日本語は知らなくとも英語で卒業論文程度は書ける時代になった。

このように、内外における日本の伝統演劇研究は確実に前進しているのだが、両者の間には儀礼的以上の交流はない。その理由のひとつは、日本人研究者が英語による業績をほとんど読まず、また自らの研究を英語で発信する努力を怠ってきたことにある。

(3) 上記の背景に鑑み、研究代表者と研究分担者は、2010 年と 2011 年の 2 度にわたり、下記の通り国際演劇学会 (International Federation for Theatre Research, IFTR) で日本の人形浄瑠璃に関する研究発表を行った。

Masami IWAI and Akihiro ODANAKA (2010). Imaginary revenge on the State: a margin of individuality on the threshold of modernizing Japan, IFTR, Ludwig-Maximilians-Universität München, Munich, Germany.

Masami IWAI and Akihiro ODANAKA (2011). Collectivity and Female Figures in *A Travel Game while Crossing Iga*, IFTR, Osaka University, Osaka, Japan.

それ以降、研究代表者と研究分担者は断続的に意見交換をしつつ共同研究を行っている。すなわち国際的な研究拠点の構築のための準備を行ってきたのである。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、上記「1. 研究開始当初の背景」を前提として、日本の伝統演劇研究を国際化するための基盤を作り上げることにある。その「基盤」には、次の 2 つの意味を込めることが可能であろう。

共通の研究対象

すなわち日本の伝統演劇の戯曲上の中心的テーマであり、かつ西洋演劇においても重要な位置を占める題材を定め、対比研究を準備することである。

国際化のための「場」の形成

本研究を通して共通の研究対象( )を論じるための場を形成し、「儀礼的以上の交流」(1. (2))を実現することである。なおこの「場」は物理的な場を必ずしも意味しない。共通のプラットフォームを形成するということである。

(2) の具体的な研究対象として、日本の仇討物/敵討物(復讐劇)を選んだ。前述 2010 年・2011 年の発表も、それぞれ『菅原伝授手習鑑』と『伊賀越道中双六』(いずれも人形浄瑠璃)における復讐をテーマとしたものであった。また後述する 2018 年の国際演劇学会でも、『義経千本桜』における復讐劇的側面に注目したわけである。研究代表者は日本の伝統演劇、分担者は西洋演劇の専門家である。両者が二人三脚で、日本語ではなく英語をベースとして研究を推進する点に本研究の特徴がある。これにより、内外の日本伝統演劇研究の間に橋を渡し、両者の対話を促すことが期待されるのである。こうした不断の活動により、 の「場」もおのずと形成されると思われる(実際、「4. 研究成果」に示すごとく、相応の成果を得たと自負する)。

### 3. 研究の方法

(1) まず、前提として日本の仇討物の範囲の確定を行う。すなわち何を以て仇討物と見なし、それはどれくらいの数量が書かれ、また全体の中でどれほどの割合を占めるのかということである(これについては 2017 年度末にある程度の見通しを得た、「4. 研究成果の(2)」参照)。

(2) さらに、マスタープロットを用いた「仇討物」の整理を行う。例えば「三代仇討」と呼ばれる「曾我物」「忠臣蔵物」「伊賀越物」について、物語論(narratology)におけるマスタープロット(master plot)の概念を用いて、作品群の系譜と発展状況を分析する。

(3) (1)(2)を経て、18 世紀を代表する仇討物の分析に入る。具体的には『仮名手本忠臣蔵』『菅原

伝授手習鑑』『伊賀越道中双六』『碁太平記白石噺』『加賀見山旧錦絵』を題材に、戯曲構造の分析を行う。

(4) 上記が当該申請書類(研究計画調書等)にも示した当初目的にかなう研究方法である。なお、これらは研究期間中大きな方向転換を余儀なくされることになる。ただしそれは目的と方法の否定ではなく、より包括的・普遍的な題材へのシフトチェンジであった。「4. 研究成果」の項に詳述する。

#### 4. 研究成果

(1) 2017年度末(2018年3月) 研究代表者は論文「復讐劇研究の構想」において、「研究の方法(1)」にのっとった仇討物の範囲を数値化する作業を試みる。西洋には近年下記の著書があり、日本の仇討物と比較するに格好と思われた。

Wetmore, Jr. Kevin J.(2008). ed., *Revenge Drama in European Renaissance and Japanese Theatre*, Palgrave Macmillan.

ただしそこで判明したことは、日本演劇における仇討は西洋のようにドラマの骨格となり得ないということであった。比較対象となる西洋の復讐劇の多くが王権と結びついているのに対し、日本のそれは個人的事象に留まりスケールに乏しい。また、「仇討」「敵打」をうたった歌舞伎・人形浄瑠璃戯曲も次表の示す通り大きな比率を占めるに至らないことが判明した(岩井 2018, 「復讐劇研究の構想」, p. 25)。

	データベース/年表/索引	「仇討」	「敵打」	総数
A	日本芸能・演劇 総合上演年表データベース	523	922	102549
B	日本演劇興行年表	11	764	74743
C	歌舞伎・浄瑠璃役名検索システム	142	795	44829
D	渥美清太郎著『系統別歌舞伎戯曲解題』演目名索引	14	54	6127
E	『歌舞伎絵尽年表』	4	64	4720

(2) 研究代表者および分担者は、2018年7月の国際演劇学会において下記の研究発表を行う。

Masami IWAI and Akihiro ODANAKA (2018). *Revenge through the Ages: Politics of Yoshitsune and the Thousand Cherry Trees*, IFTR, University of Arts in Belgrade, Faculty of Philosophy, Belgrade, Republika Srbija.

これは前述のごとく『義経千本桜』の中の仇討(復讐)に着目したもので、内外の研究者より反響を得た。ただし当該発表の準備段階において(1)の成果を得ていたため、対象はこの後仇討物から政治劇へとシフトすることとなる。

(3) 上記(1)(2)の判断から、研究代表者および分担者は仇討物と政治劇が相互に包含関係にあることに着目し、対象を政治劇に移すことにした。折から、本研究が将来的に英語で出版できるかも知れないという示唆を得た。すなわち、当初の目的である「日本演劇研究の国際化のための基盤作り」が、かたちをかえて実現可能となったわけである。

(4) (3)の研究を進めるため、対象を『国性爺合戦』『芦屋道満大内鑑』『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』『近江源氏先陣館』『妹背山婦女庭訓』『伊賀越道中双六』の8作品に絞り、2ヶ月に1作のペースで共同討議を行ってきた。その成果の一部は、下記研究成果の項に示す論文・学会発表となって公開された。

(5) 2020年3月の時点では当該出版はまだ実現していないが、上記アンドリュー・ガーストル SOAS 教授の他に、アラン・カミングス SOAS 准教授、B. ルベルティ ベネチア大学教授等、海外の専門家の助言も得ることにより、刊行の可能性はかなり高まったと判断する。

(6) なお、本研究の成果は2020年8月にアントワープ(ベルギー)で開催予定のヨーロッパ日本学会(EAJS)で発表する予定であったが、COVID-19のため残念ながら中止となった。また、2020年6月に研究代表者の本務校である名城大学にて日本演劇学会全国大会を開催し、「演劇研究の国際性と学際性」を大会テーマに内外の研究者と国際化の「場」の形成(2.(1))についても議論する予定であったが、これも COVID-19のため残念ながら中止となった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岩井眞實	4. 巻 3
2. 論文標題 『傾城枕軍談』と『義経千本桜』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Faculty of Foreign Studies, Meiho University	6. 最初と最後の頁 171-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井眞實	4. 巻 223
2. 論文標題 見得の発生に関する論点整理 擬勢から見得へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 藝能史研究	6. 最初と最後の頁 16-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井眞實	4. 巻 117
2. 論文標題 復讐劇研究の構想	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名城大学人文紀要	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 岩井眞實、小田中章浩
2. 発表標題 Revenge through the Ages: Politics of Yoshitsune and the Thousand Cherry Trees
3. 学会等名 国際演劇学会（IFTR）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩井眞實、中尾薫、武井協三、高橋則子
2. 発表標題 日本伝統演劇と文化現象
3. 学会等名 日本演劇学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 武田 政子、狩野 啓子、岩井 眞實	4. 発行年 2018年
2. 出版社 海鳥社	5. 総ページ数 246
3. 書名 芝居小屋から	

1. 著者名 ボナヴェントゥーラ・ルベルティ、岩井眞實 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 307
3. 書名 日本の舞台芸術における身体 死と生、人形と人工体	

1. 著者名 毛利三彌、天野文雄、岩井眞實 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 258
3. 書名 東アジア古典演劇の伝統と近代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小田中 章浩  (Odanaka Akihiro)  (70224251)	大阪市立大学・大学院文学研究科・教授     (24402)	